

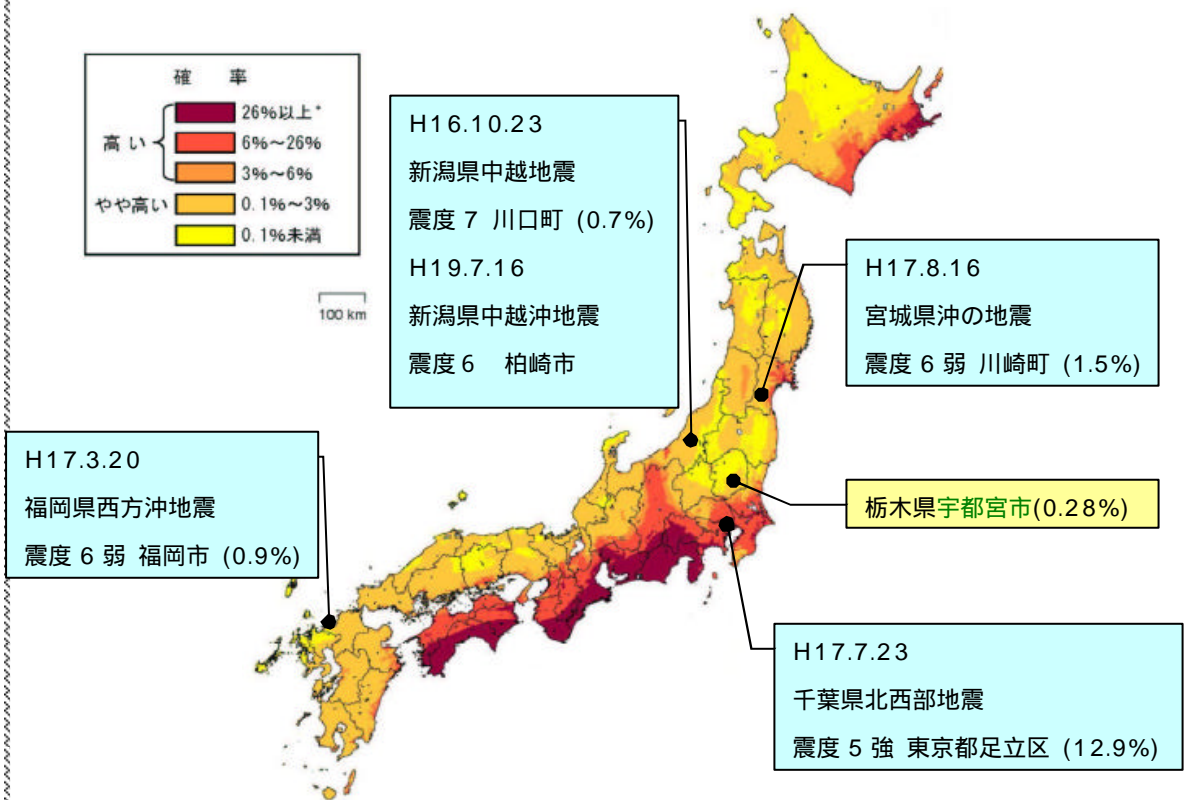
## 想定される地震の規模、被害の予測 説明資料

平成7年の阪神・淡路大震災では、約6,400人の尊い命が奪われましたが、このうち地震による直接的な死者数約5,500人の約9割が住宅・建築物の倒壊等によるものでした。また、平成16年の新潟県中越大震災や平成19年の新潟県中越沖地震でも甚大かつ長期にわたり被害が生じています。

国の地震調査委員会では、地震に対する正しい知識の普及を目的として「全国を概観した地震動予測地図」を作成し公表しています。その報告の中で「日本国内には多くの活断層や海域で発生する大地震のほか、どこで起きるかわからない地震もあり、地震が発生して強い揺れに見舞われる危険性は全国どこにでもある。」とされています。

### 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図

【全国を概観した地震動予測地図】(基準日：平成18年1月1日)



これは、国の地震調査委員会がまとめた「全国を概観した地震予測地図」の報告書から抜粋した地図に、最近の主な地震により大震度を観測した市町村の位置を重ね合わせたもの<sup>1</sup>です。(カッコ内の数字は当該市町村役場周辺における今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率を示します。)

<sup>1</sup> 地震調査研究推進本部「全国を概観した地震動予測地図」報告書 図3.3.1-1を基に作成

鹿沼市における地震被害想定としては、「鹿沼市地域防災計画」における地震被害想定があるので、次にこれを掲載します。

「今市地震（マグニチュード 6.4）と栃木県（2004）が想定した想定宇都宮直下の地震（マグニチュード 7.3）の震度分布を参考に、最新のデータや手法により次の被害量を算定しました。

これによると、市内の家屋の 5%以上の家屋が全壊し、千人以上の市民が避難所生活を強いられる可能性があります。また、市の年間ごみ処理量の 3 倍近いがれきが発生する可能性があります。

なお、想定地震は、海溝型地震や鹿沼市域直下を震源とする地震も考えられますが、本市域はプレート境界から離れていること、市域直下の大地震は市内及び周辺でも記録が無いこと、また、県の想定地震でも本市域に甚大な被害が予測され、防災対策の目標として妥当であることから、これを想定対象としました。

**鹿沼市域の地震被害予測量**

算定項目		想定地震	想定宇都宮直下の地震	今市地震
家屋	ゆれによる全壊		2,400棟	40棟
	出火件数		35件	2件
	延焼による焼失		750棟	0棟
	総計		3,100棟	40棟
人的被害	り災者		8,100人	100人
	避難所生活者		2,300人	30人
震災廃棄物	可燃性がれき		51,000 <sup>ト</sup>	600 <sup>ト</sup>
	不燃性がれき		143,000 <sup>ト</sup>	2,000 <sup>ト</sup>

家屋被害の総計は、複数の原因（ゆれ、延焼焼失）で被災した家屋を 1 つに統合した値。」